

「全港湾第55期中央労働講座報告」

全港湾東北地方ひたち支部

書記長 古内 厚志

まず初めに思ったことは、級長はいつ決めるのだろうでした。

今回は労働組合役員としての大切にしなければならぬモノを思い出させてくれる内容でした。こういった研修に参加できるのも、家を家族が守り、仕事を仲間が預かってくれた上に、皆の組合費を拠出していただいたからであり、私としては並々ならぬ思いを持って参加させていただいたつもりです。

講座の内容も、組織運営するために必要不可欠な心構えや世の仕組みを踏まえた理論に裏付けられた組織論そのものでした。不満があるから労働組合に入り、家族や仲間が困っているから助けるという基本的かつ当たり前のことを、我々は如何に忘れがちだったかを思い知りました。また、労働基準法のような最低限知っておかなくてはならない知識すら満足に持ちえない自分の力不足を痛感し、一段とギアを上げていこうと心に決めました。

また、初めて会う仲間、再会した仲間と過ごした時間の中で学んだことも多く、自分が普段過ごす日常の半径5mにいる人を大切にしたい思いや、労働組合とはどうあるべきかを真剣に語り合うことで人間として成長できたことを実感しております。

今回、中央本部の取り計らいで開催されたレクリエーションでのドッジボールでは、誰もが年齢を忘れ本気で臨み、各班の団結構築を一層加速させた上に、優勝チームへの賞品を利用し、参加者全体の団結も形成するという松永書記長のマネジメント能力には本当に感嘆させられました。(冗談抜きで参考になりました)

最後の各班のグループ討論発表では、皆が本気で悩み、真剣に議論して辿り着いたまとめを聞いていて、仲間の心強さや全港湾に入って良かったと心から感じ涙が出そうでした。講座の結びに級長として総括させていただいた言葉も嘘はありません。我々は全港湾のような素晴らしい組織を維持発展させ、家族や仲間をはじめ、世の全ての人のためにも、今回授かった武器を正しく使うことで、コツコツと足元から世直しをしていかななくてはなりません。そして、第55期のメンバーで再会した時には、お互いが取り組んだ運動を報告し合いながら盃を酌み交わせることを心待ちにします。まずは東北で開催される第95回定期全国大会にて、皆さんと今回の労働講座をゆっくり振り返りたいと思います。

最後に、ドッジボール大会優勝チームの班長が任命されるという「級長」の任を獲得すべく、必死に闘ってくれた4班の皆さんには心より感謝申し上げます。おかげで最終日まで自分が持っている以上の力を出すことができ、参加者全員の士気高揚に貢献できたことを嬉しく思います。第55期中央労働講座は終わりましたが、55期のメンバーの団結は永遠であります。今後とも、共に生き、共に頑張りましょう。